

抗コレラ毒素抗体, ウサギ抗血清

64-007 100 µl

保存: 4℃または-20℃で送付、-20℃で保存。凍結・融解は避けるべきだが、必要な時は急速に行う。

抗原: *Vibrio cholerae* 569B 株の培地より精製されたコレラ毒素

形状: 0.05% sodium azide 添加抗血清

用途:

1. ウェスタンブロッティング (1/2,000 希釈) 他の用途は試されていない

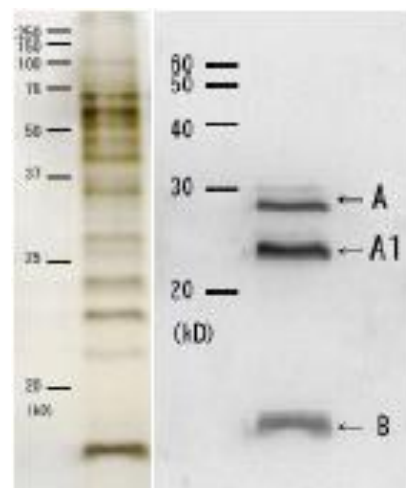
背景: コレラ毒素はコレラエンテロトキシンとも呼ばれ、激しい下痢を伴う食中毒を起こす通性嫌気性のグラム陰性菌 *Vibrio cholerae* が産生する。コレラ毒素は分子量 27.2 kD の A サブユニット 1 分子と 11.6 kD の B サブユニット 5 分子からなる複合体である。コレラ毒素は B サブユニットを介して、標的細胞表面にあるガングリオシド GM1 に結合し、細胞内に取り込まれる。細胞内で分離、プロセスされた A1 が G タンパク質の一つである促進性 G タンパク質(Gs)の α サブユニットを ADP リボシル化し、アデニル酸シクラーゼの持続的な活性化を引き起す。

高度に精製されたコレラ毒素をウサギに免疫して抗コレラ毒素抗体が作成された。

データリンク: UniProt KB [Cholera toxin](#)

文献:

- Hirst TR and D'Souza JM In *The Comprehensive Sourcebook of Bacterial Protein Toxins* Alouf J and Popoff M ed. 3rd edn. p. 270-290 Academic Press (2006)
- Finkelstein RA and LoSpalluto JJ "Pathogenesis of experimental cholera. Preparation and isolation of cholera toxin and cholera toxinoid." *J. Exp Med* **130**: 185-202 (1969) PMID: [4978880](#)
- Iijima Y and Honda T "Enterotoxin of *Vibrio Cholerae*." In *Recent Advances in Marine Biotechnology* Fingerman M and Nagabhushanam R ed. Science Pub. Inc. **7**: 41 (2002)



図左 コレラ菌培養液の SDS-PAGE

Vibrio cholerae 569 株細胞抽出液を還元条件の下に電気泳動し銀染色を行った。

図右 コレラ菌培養液のウェスタンブロッティング

Vibrio cholerae 569 株細胞抽出液を還元条件の下に電気泳動し、この抗体を用いたウェスタンブロッティングを行った。A は未切断の前駆体、A1 は切断されたサブユニット、A2 サブユニット (5 kDa) はゲルから流れ出てみれない。B はサブユニット B である。